筑摩書房「論理国語」（論国 ７10）年間指導計画（シラバス）案

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 科　目 | 単位数 | 指導学年 | 使用教科書・副教材等 |
| 論理国語 | ４単位 | ○○科○学年○学級 | 筑摩書房『論理710　論理国語』  準拠ノート『論理国語　課題ノート』  （「課題ノート」の扱いについては省略） |

１　学習の到達目標等

|  |  |
| --- | --- |
| 学習の到達目標 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。  (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。  (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。  (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 |

２　評価の観点

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 評価の観点 | | |
| a ．知識・技能 | ｂ．思考力・判断力・表現力 | ｃ．主体的に学習に取り組む態度 |
| 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 | 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 | 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。 |

３　学習計画及び評価方法等（論国710）

| 月 | 単元名 | 単元の目標 | 学習内容（教材） | 配当時間 | 学習活動 | 評価基準・評価方法 | 評価の方法 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| a 　（知識・技能）ｂ　（思考力・判断力・表現力）A書くこと　B読むことｃ　（主体的に学習に取り組む態度） |
| 第一部 | | | | | | | |
| ４ | 第１章　架橋することば | 人と世界を結ぶことばの働きを理解する  【読むこと】 | アイオワの玉葱 | ２ | ➀ことばの性質とともに、日常生活で感じた小さな違和感や気づきに問題を見つけ、考えを深めていく筆者の思考のありかたに注目する。  ②本文中で、言語と文化に関する筆者のどのような考えが表れているかを考える。  ③日本語のことわざや慣用句と同じ意味を持つ表現をさまざまな言語から探し、表現の仕方の違いや、その印象について話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「アイオワの玉葱」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「アイオワの玉葱」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「アイオワの玉葱」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「アイオワの玉葱」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「アイオワの玉葱」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「アイオワの玉葱」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  ウ）　「アイオワの玉葱」の読解を通して、推論の仕方について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「アイオワの玉葱」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「アイオワの玉葱」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「アイオワの玉葱」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「アイオワの玉葱」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「アイオワの玉葱」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「アイオワの玉葱」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「アイオワの玉葱」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「アイオワの玉葱」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 4 | 第１章　架橋することば | 人と世界を結ぶことばの働きを理解する  【読むこと】 | 一〇〇パーセントは正しくない科学 | ２ | ➀物事を筋道立てて考えるために役にたつ論理学の用語や、科学における仮説の意味などを学ぶ。  ②　科学が「100％は正しくない」とはどのようなことか、考える。  ③　身近な出来事から推論の例を考え、本文にならってその推論を図に書いて説明する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「一〇〇パーセントは正しくない科学」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「一〇〇パーセントは正しくない科学」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「一〇〇パーセントは正しくない科学」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている。  エ）「一〇〇パーセントは正しくない科学」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「一〇〇パーセントは正しくない科学」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「一〇〇パーセントは正しくない科学」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  ウ）　「一〇〇パーセントは正しくない科学」の読解を通して、推論の仕方について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「一〇〇パーセントは正しくない科学」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「一〇〇パーセントは正しくない科学」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「一〇〇パーセントは正しくない科学」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「一〇〇パーセントは正しくない科学」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「一〇〇パーセントは正しくない科学」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「一〇〇パーセントは正しくない科学」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「一〇〇パーセントは正しくない科学」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「一〇〇パーセントは正しくない科学」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動ヘの取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 4 | 第１章　架橋することば | 人と世界を結ぶことばの働きを理解する  【読むこと】 | 物語るという欲望 | ２ | ①解釈に関する筆者の考え方を学ぶ。  ②例示を効果的に使った文章展開に注目する。  ③映画を見て、一見意味のなさそうな映像に「奇妙な抵抗感」を覚えたことはなかったか、それぞれの経験を話し合う。  ④筆者の主張を踏まえて、メディアで取り上げられているニュースについて関心のあるものを選び、どのような「解釈」がされているか、考えてみる。  ⑤本文の論旨を踏まえて物語作品を読み、私たちが物語のどのような点について、どのような「解釈」を行いながら読んでいるか、気づいたことをまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「物語るという欲望」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「物語るという欲望」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「物語るという欲望」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「物語るという欲望」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「物語るという欲望」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「物語るという欲望」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  ウ）　「物語るという欲望」の読解を通して、推論の仕方について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「物語るという欲望」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「物語るという欲望」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「物語るという欲望」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「物語るという欲望」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「物語るという欲望」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「物語るという欲望」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「物語るという欲望」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「物語るという欲望」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ５ | 第２章　日常の中の論点 | 身近な物事を分析し、その仕組みを捉える【読むこと】 | ファッションの現象学 | ３ | ➀「対比」の効果について考える。  ②抽象的な表現の仕方を通して、学習の基礎となる重要語句を文章のなかで理解する。  ③本文中のことばの意味を調べ、それらの語を用いて短い文章を書く。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「ファッションの現象学」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「ファッションの現象学」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「ファッションの現象学」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「ファッションの現象学」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「ファッションの現象学」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「ファッションの現象学」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  ウ）　「ファッションの現象学」の読解を通して、推論の仕方について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「ファッションの現象学」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「ファッションの現象学」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「ファッションの現象学」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「ファッションの現象学」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「ファッションの現象学」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「ファッションの現象学」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「ファッションの現象学」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「ファッションの現象学」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　日常の中の論点 | 身近な物事を分析し、その仕組みを捉える【読むこと】 | 地図の想像力 | ３ | ①本文の論理構成を追い、人間と世界との多様な関係について考える。  ②さまざまな地図について、その特色を話し合う。  ③関心のある情報について、発信者の価値基準に着目して比較・分析をする。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「地図の想像力」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「地図の想像力」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「地図の想像力」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「地図の想像力」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「地図の想像力」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「地図の想像力」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  ウ）　「地図の想像力」の読解を通して、推論の仕方について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「地図の想像力」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「地図の想像力」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「地図の想像力」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「地図の想像力」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「地図の想像力」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「地図の想像力」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「地図の想像力」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「地図の想像力」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　日常の中の論点 | 身近な物事を分析し、その仕組みを捉える【読むこと】 | 本当は怖い「前提」の話 | ３ | ➀本文を読んで「前提」を見直し、情報と情報との関係を理解する。  ②特定の主張や価値観を前提にした表現が用いられている事例を身の回りから探し、発表する。  ③自分自身の言動の中に、気づかないうちに「当然の前提」としてしまっていることがないか、振り返ってまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「本当は怖い「前提」の話」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「本当は怖い「前提」の話」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「本当は怖い「前提」の話」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「本当は怖い「前提」の話」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「本当は怖い「前提」の話」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「本当は怖い「前提」の話」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  ウ）　「本当は怖い「前提」の話」の読解を通して、推論の仕方について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「本当は怖い「前提」の話」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「本当は怖い「前提」の話」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「本当は怖い「前提」の話」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「本当は怖い「前提」の話」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「本当は怖い「前提」の話」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「本当は怖い「前提」の話」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「本当は怖い「前提」の話」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「本当は怖い「前提」の話」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 6 | 第３章　〈私〉のいる場所 | 偏見や先入観にとらわれない議論のあり方を考える  【書くこと】 | 近代の成立――遠近法 | ２ | ①「近代」が生み出してきた思考や世界観について本文を読んで理解する。  ②「近代」において「主体」と「客体」として位置づけられたものにはどのようなものがあるか、またその区分はどのような問題を作り出したか、関心のある領域について調べ、レポートにまとめる。  ③近代の問題について、解決するにはどうすべきか考え、まとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「近代の成立――遠近法」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「近代の成立――遠近法」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「近代の成立――遠近法」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「近代の成立――遠近法」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「近代の成立――遠近法」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「近代の成立――遠近法」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  ウ）　「近代の成立――遠近法」の読解を通して、推論の仕方について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「近代の成立――遠近法」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている  ｂ　【Ａ 書くこと】  ア）「近代の成立――遠近法」を参考にレポートや小論文を書き、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができている。  イ）　「近代の成立――遠近法」を参考にレポートや小論文を書き、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができている。  ウ）　「近代の成立――遠近法」を参考にレポートや小論文を書き、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。  エ）　「近代の成立――遠近法」を参考にレポートや小論文を書き、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができている。  オ）　「近代の成立――遠近法」を参考にレポートや小論文を書き、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができている。  カ）　「近代の成立――遠近法」を参考にレポートや小論文を書き、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物・定期考査 |
| ６ | 第３章　〈私〉のいる場所 | 偏見や先入観にとらわれない議論のあり方を考える  【書くこと】 | 沖縄戦を聞く | ３ | ➀本文を通して「聞く」ためにはどのような姿勢が必要なのか、考える。  ②「生活史」という観点に注目しながら、身近な人の聞き取り調査を行い、聞き取った内容を文章にしてみよう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「沖縄戦を聞く」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「沖縄戦を聞く」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「沖縄戦を聞く」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「沖縄戦を聞く」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「沖縄戦を聞く」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「沖縄戦を聞く」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  ウ）　「沖縄戦を聞く」の読解を通して、推論の仕方について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「沖縄戦を聞く」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ　【Ａ 書くこと】  ア）「沖縄戦を聞く」を参考にレポートや小論文を書き、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができている。  イ）　「沖縄戦を聞く」を参考にレポートや小論文を書き、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができている。  ウ）　「沖縄戦を聞く」を参考にレポートや小論文を書き、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。  エ）　「沖縄戦を聞く」を参考にレポートや小論文を書き、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができている。  オ）　「沖縄戦を聞く」を参考にレポートや小論文を書き、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができている。  カ）　「沖縄戦を聞く」を参考にレポートや小論文を書き、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしてい／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しを持って　言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしており、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、粘り強く取り組みを行う中でものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物・定期考査 |
| ６ | 第３章　〈私〉のいる場所 | 偏見や先入観にとらわれない議論のあり方を考える  【書くこと】 | 数字化される世界 | ２ | ➀本文を読んで、統計に対する認識を深める。  ②関心のある事柄についての統計を選び、その数字からどのようなことが読み取れるか、また数字からだけでは分からないことはないか、考えたことをまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「数字化される世界」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「数字化される世界」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「数字化される世界」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「数字化される世界」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「数字化される世界」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「数字化される世界」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  ウ）　「数字化される世界」の読解を通して、推論の仕方について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「数字化される世界」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ　【Ａ 書くこと】  ア）「数字化される世界」を参考にレポートや小論文を書き、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができている。  イ）　「数字化される世界」を参考にレポートや小論文を書き、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができている。  ウ）　「数字化される世界」を参考にレポートや小論文を書き、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。  エ）　「数字化される世界」を参考にレポートや小論文を書き、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができている。  オ）　「数字化される世界」を参考にレポートや小論文を書き、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができている。  カ）　「数字化される世界」を参考にレポートや小論文を書き、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物・定期考査 |
| ６ | 第３章　〈私〉のいる場所 | 偏見や先入観にとらわれない議論のあり方を考える  【書くこと】 | 実践１　多様な文章に触れよう | ２ | ①「民法７５０条」「憲法１３条」および「憲法１４条１項」を読んで、法令文の特徴を挙げ、憲法と民法の違いについて考える。  ②木村草太「憲法の力を生かすには」を読み、夫婦別姓の権利を主張する立場として、原告の「第二の主張」に欠けていた観点は何か、考える。  ③木村草太「憲法の力を生かすには」を読み、夫婦別姓の正当性が認められるには不足していたと筆者が考える論点を本文から抜き出す。  ④別姓を望みながらも別姓での婚姻が認められないカップルが被る不利益とはどのようなものか考える。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「多様な文章に触れよう」という実践活動を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「多様な文章に触れよう」という実践活動を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「多様な文章に触れよう」という実践活動を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「多様な文章に触れよう」という実践活動を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「多様な文章に触れよう」という実践活動を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「多様な文章に触れよう」という実践活動を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「多様な文章に触れよう」という実践活動を通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ　【Ａ 書くこと】  ア）「多様な文章に触れよう」という実践活動を参考にレポートや小論文を書き、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができている。  イ）　「多様な文章に触れよう」という実践活動を参考にレポートや小論文を書き、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができている。  ウ）　「多様な文章に触れよう」という実践活動を参考にレポートや小論文を書き、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。  エ）　「多様な文章に触れよう」という実践活動を参考にレポートや小論文を書き、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができている。  オ）　「多様な文章に触れよう」という実践活動を参考にレポートや小論文を書き、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができている。  カ）　「多様な文章に触れよう」という実践活動を参考にレポートや小論文を書き、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物 |
| 7 | 第４章　変貌する時代、変貌する人間 | ことばと社会の関係を意識する  【読むこと】 | 人新世における人間 | ２ | ①本文を読んで、科学者たちが提唱した「人新世」という新しい語が、社会にどのような視点を提供したのか、考える。  ②事典などを用いて「地層」に基づく年代区分について調べ、まとめる。  ③もし自分が「未来の地質学者」ならば、２１世紀初めの地球環境をめぐる議論をどう位置づけるか、自分なりに想像してまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「人新世における人間」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「人新世における人間」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「人新世における人間」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「人新世における人間」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  イ）　「人新世における人間」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  ウ）　「人新世における人間」の読解を通して、推論の仕方について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「人新世における人間」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「人新世における人間」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「人新世における人間」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「人新世における人間」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「人新世における人間」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「人新世における人間」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「人新世における人間」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「人新世における人間」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 7 | 第４章　変貌する時代、変貌する人間 | ことばと社会の関係を意識する  【読むこと】 | 現代日本の開化 | ３ | ➀本文を読んで、「いつ・どこで・誰が・どんな立場から」語った文章なのか意識する。  ②本文を読んで、観客を前にした講演ならではのレトリックに注目する。  ③筆者・夏目漱石について調べてみる。  ④「こころ」「夢十夜」などの漱石の著作を読み、その内容を違いに紹介する。  ⑤漱石が「現代日本の開化」を講演した当時の日本社会にはどのような課題があったかを調べ、発表する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「現代日本の開化」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「現代日本の開化」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「現代日本の開化」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「現代日本の開化」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  イ）　「現代日本の開化」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  ウ）　「現代日本の開化」の読解を通して、推論の仕方について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「現代日本の開化」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「現代日本の開化」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「現代日本の開化」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「現代日本の開化」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「現代日本の開化」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「現代日本の開化」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「現代日本の開化」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「現代日本の開化」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 7 | 第４章　変貌する時代、変貌する人間 | ことばと社会の関係を意識する  【読むこと】 | 変貌する聖女 | ２ | ➀本文を読んで、社会の中で用いられることばには、そのことばを使う人々のものの見方・考え方が反映されていることを理解する。  ②事典などを用いて、マリー・キュリーの生涯や実績について調べる。  ③映画や小説の中での女性の描かれ方にはどのような特徴や傾向があるか、具体例を挙げて話し合う。  ④③の特徴や傾向はその作品の創られた時代をどう関係しているか、考える。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「変貌する聖女」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「変貌する聖女」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「変貌する聖女」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「変貌する聖女」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  イ）　「変貌する聖女」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  ウ）　「変貌する聖女」の読解を通して、推論の仕方について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「変貌する聖女」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「変貌する聖女」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「変貌する聖女」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「変貌する聖女」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「変貌する聖女」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「変貌する聖女」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「変貌する聖女」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「変貌する聖女」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 9 | 第５章　歴史に向き合う | 時代の隔たりから得られる知を学ぶ  【読むこと】 | 異時代人の目 | ２ | ①本文を読み、筆者が明らかにする人間の知性の「限界」と「希望」とを正しく読み取る。  ②筆者は「歴史学」をどのようなものと考えているか、まとめる。  ③大きな「価値の転換」が起こった歴史上の事例を調べて、発表する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「異時代人の目」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「異時代人の目」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「異時代人の目」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「異時代人の目」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「異時代人の目」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「異時代人の目」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「異時代人の目」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「異時代人の目」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「異時代人の目」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「異時代人の目」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「異時代人の目」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「異時代人の目」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「異時代人の目」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「異時代人の目」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ９ | 第５章　歴史に向き合う | 時代の隔たりから得られる知を学ぶ  【読むこと】 | 荘子 | ３ | ➀本文を読んで、古典の意義はどこにあるのか、歴史を経た叡智がさまざまな解釈によってよみがえることを学ぶ。  ②本文中に引用されている漢文の書き下し文と、その現代語訳を朗読し、それぞれの文章が与える印象の違いはどのような点に起因するか、話し合う。  ③『老子』や『荘子』、あるいは日本の古典を読み、そこから気に入った一節を遺尿して、どのような考え方が見いだせるか、文章にまとめる。  ④　③について、どうした考え方は現代においてどのように生かすことができるか、話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「荘子」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「荘子」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「荘子」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「荘子」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「荘子」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「荘子」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「荘子」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「荘子」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「荘子」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「荘子」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「荘子」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「荘子」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「荘子」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「荘子」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ９ | 第５章　歴史に向き合う | 時代の隔たりから得られる知を学ぶ  【読むこと】 | 日本の社会は農業社会か | ３ | ➀「事実」に対してどのような態度を持つことが必要か、本文を踏まえてまとめる。  ②なぜ「新聞記者」たちは事実とは異なる記事を出してしまったのか。取材する側の立場になって、その理由を考える。  ②思い込みが多くの人々を誤った認識に駆り立ててしまった具体例について調べ、その内容を発表してみよう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「日本の社会は農業社会か」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「日本の社会は農業社会か」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「日本の社会は農業社会か」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「日本の社会は農業社会か」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「日本の社会は農業社会か」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「日本の社会は農業社会か」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「日本の社会は農業社会か」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「日本の社会は農業社会か」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「日本の社会は農業社会か」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「日本の社会は農業社会か」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「日本の社会は農業社会か」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「日本の社会は農業社会か」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「日本の社会は農業社会か」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「日本の社会は農業社会か」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第６章　世界を視る位置 | 多面的な視点から文章を捉える  【読むこと】 | ファンタジー・ワールドの誕生 | ３ | ①異なる立場や視点を整理して理解し、社会に対する多角的・批判的な見方を学ぶ。  ②自分たちの旅行経験を、筆者の言う現代の「観光」のあり方の観点から振り返り、気づいたことを話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「ファンタジー・ワールドの誕生」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「ファンタジー・ワールドの誕生」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「ファンタジー・ワールドの誕生」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「ファンタジー・ワールドの誕生」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「ファンタジー・ワールドの誕生」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「ファンタジー・ワールドの誕生」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「ファンタジー・ワールドの誕生」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「ファンタジー・ワールドの誕生」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「ファンタジー・ワールドの誕生」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「ファンタジー・ワールドの誕生」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「ファンタジー・ワールドの誕生」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「ファンタジー・ワールドの誕生」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「ファンタジー・ワールドの誕生」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「ファンタジー・ワールドの誕生」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第６章　世界を視る位置 | 多面的な視点から文章を捉える  【読むこと】 | 生物の作る環境 | ３ | ➀本文を読んで、客観的とされる視点の裏に主観的な価値付けが入り込み得ることを学び、異なる立場への意識を高める。  ②「刊世界」と、通常の客観的な環境の捉え方とを比較し、その特徴と意義をまとめる。  ③筆者の本を読んで、そこで論じられている自然や生物に関する考え方を紹介し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「生物の作る環境」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「生物の作る環境」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「生物の作る環境」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「生物の作る環境」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「生物の作る環境」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「生物の作る環境」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「生物の作る環境」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「生物の作る環境」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「生物の作る環境」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「生物の作る環境」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「生物の作る環境」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「生物の作る環境」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「生物の作る環境」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「生物の作る環境」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第６章　世界を視る位置 | 多面的な視点から文章を捉える  【読むこと】 | 貧困は自己責任なのか | ２ | ➀本文を読んで、引用の中の語句を解釈しながら自説を組み立てる論法に留意する。  ②本文を読んで、筆者の考え方を理解し、現代社会の問題点に光を当てる視座の見いだし方を学ぶ。  ③貧困の自己責任論と筆者の主張が相容れないのはなぜか、２００字以内でまとめる。  ③貧困問題を抱える社会にとって豊かさとは何か、本文の議論を踏まえた上で話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「貧困は自己責任なのか」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「貧困は自己責任なのか」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「貧困は自己責任なのか」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「貧困は自己責任なのか」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「貧困は自己責任なのか」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「貧困は自己責任なのか」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「貧困は自己責任なのか」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「貧困は自己責任なのか」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「貧困は自己責任なのか」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「貧困は自己責任なのか」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「貧困は自己責任なのか」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「貧困は自己責任なのか」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「貧困は自己責任なのか」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「貧困は自己責任なのか」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11 | 第７章　〈伝統〉を見つめ直す | 伝統を扱った文章を読み、書く力を鍛える  【書くこと】 | 模倣と「なぞり」 | ３ | ➀本文を読んで、対比的に書かれた筆者の主張を論理的に捉える。  ②本文を読んで、具体例に基づいて説得力ある議論を組み立てる手法を学ぶ。  ③「なぞり」によって身につけたものにはどのようなものがあるか、話し合う。  ③「模倣」について自分なりのテーマを定め「序論」→「反論」→「結論」と言うこと構成で８００字以内で論じる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「模倣と「なぞり」」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「模倣と「なぞり」」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「模倣と「なぞり」」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「模倣と「なぞり」」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「模倣と「なぞり」」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「模倣と「なぞり」」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「模倣と「なぞり」」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている  ｂ　【Ａ 書くこと】  ア）「模倣と「なぞり」」を参考にレポートや小論文を書き、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができている。  イ）　「模倣と「なぞり」」を参考にレポートや小論文を書き、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができている。  ウ）　「模倣と「なぞり」」を参考にレポートや小論文を書き、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。  エ）　「模倣と「なぞり」」を参考にレポートや小論文を書き、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができている。  オ）　「模倣と「なぞり」」を参考にレポートや小論文を書き、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができている。  カ）　「模倣と「なぞり」」を参考にレポートや小論文を書き、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物・定期考査 |
| 11 | 第７章〈伝統〉を見つめ直す | 伝統を扱った文章を読み、書く力を鍛える  【書くこと】 | 桜が創った「日本」 | ３ | ①本文を読んで、既存の関係を相対化するために視点を反転させる思考のあり方を学ぶ。  ②桜を扱った和歌や文学作品について調べ、その中で「桜」がどのように描かれているか、まとめる。  ③関心のある物事を選び、本文を参考に、人間以外の存在の観点から４００字以内で論じる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「桜が創った「日本」」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「桜が創った「日本」」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「桜が創った「日本」」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「桜が創った「日本」」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「桜が創った「日本」」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「桜が創った「日本」」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「桜が創った「日本」」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている  ｂ　【Ａ 書くこと】  ア）「桜が創った「日本」」を参考にレポートや小論文を書き、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができている。  イ）　「桜が創った「日本」」を参考にレポートや小論文を書き、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができている。  ウ）　「桜が創った「日本」」を参考にレポートや小論文を書き、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。  エ）　「桜が創った「日本」」を参考にレポートや小論文を書き、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができている。  オ）　「桜が創った「日本」」を参考にレポートや小論文を書き、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができている。  カ）　「桜が創った「日本」」を参考にレポートや小論文を書き、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物・定期考査 |
| 11 | 第７章　〈伝統〉を見つめ直す | 伝統を扱った文章を読み、書く力を鍛える  【書くこと】 | 清光館哀史 | ３ | ➀本文を読んで、時間の編集や会話の選択、転換など、独特な文章構成によって「記憶」を鮮やかに「記録」する手法を学ぶ。  ②谷崎潤一郎「陰影礼讃」など、日本の伝統的な文化について論じた文章を参考に、関心のある伝統文化についてレポートを書く。  ③ひとまとまりの出来事を記録する際、出来事の時間軸を変えて語るなどの構成の工夫がどのような効果を生むか、考える。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「清光館哀史」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「清光館哀史」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「清光館哀史」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「清光館哀史」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「清光館哀史」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「清光館哀史」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「清光館哀史」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ　【Ａ 書くこと】  ア）「清光館哀史」を参考にレポートや小論文を書き、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができている。  イ）　「清光館哀史」を参考にレポートや小論文を書き、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができている。  ウ）　「清光館哀史」を参考にレポートや小論文を書き、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。  エ）　「清光館哀史」を参考にレポートや小論文を書き、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができている。  オ）　「清光館哀史」を参考にレポートや小論文を書き、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができている。  カ）　「清光館哀史」を参考にレポートや小論文を書き、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物・定期考査 |
| 11 | 第７章　〈伝統〉を見つめ直す | 伝統を扱った文章を読み、書く力を鍛える  【書くこと】 | 実践２　レポートを書こう | １ | ①レポートの型について学ぶ。  ②レポートを書く手順について学ぶ。  ③レポートを書く際の注意点について学ぶ。  ④レポートの構成例を参考に、レポートを書く。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「レポートを書こう」という実践を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「レポートを書こう」という実践を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「レポートを書こう」という実践を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「レポートを書こう」という実践を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「レポートを書こう」という実践を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「レポートを書こう」という実践を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  ウ）　「レポートを書こう」という実践を通して、推論の仕方について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「レポートを書こう」という実践を通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ　【Ａ 書くこと】  ア）「レポートを書こう」という実践を参考にレポートや小論文を書き、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができている。  イ）「レポートを書こう」という実践を参考にレポートや小論文を書き、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができている。  ウ）「レポートを書こう」という実践を参考にレポートや小論文を書き、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。  エ）「レポートを書こう」という実践を参考にレポートや小論文を書き、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができている。  オ）「レポートを書こう」という実践を参考にレポートや小論文を書き、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができている。  カ）「レポートを書こう」という実践を参考にレポートや小論文を書き、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物 |
| 12 | 第８章　現代という課題 | 日常に潜む問題を見つけ出す  【読むこと】 | 男の絆、女たちの沈黙 | ３ | ①本文を読んで、具体例を挙げながら、現状の分析へと至る筆者の議論をたどり、自分の周囲で起こっている事象を捉え直す契機とする。  ②新聞やテレビ、ネットニュースなどから「ジェンダー」に関する話題を探し、その内容をまとめる。  ③自分たちが無意識のうちの社会の前提としてしまっていることについて考え、意見をまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「男の絆、女たちの沈黙」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「男の絆、女たちの沈黙」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「男の絆、女たちの沈黙」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「男の絆、女たちの沈黙」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「男の絆、女たちの沈黙」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「男の絆、女たちの沈黙」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「男の絆、女たちの沈黙」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「男の絆、女たちの沈黙」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「男の絆、女たちの沈黙」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「男の絆、女たちの沈黙」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「男の絆、女たちの沈黙」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「男の絆、女たちの沈黙」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「男の絆、女たちの沈黙」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「男の絆、女たちの沈黙」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物・定期考査 |
| 12 | 第８章　現代という課題 | 日常に潜む問題を見つけ出す  【読むこと】 | トリアージ社会 | ３ | ①本文を読んで、ことばの変遷を追うことによって社会の実像が見えてくるということを学ぶ。  ②治療において「トリアージ」が導入されることについてどのように考えるか、自分の意見をまとめる。  ③本文をもとに、自分は人間をどのような存在だと考えるか、自分の考えをまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「トリアージ社会」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「トリアージ社会」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「トリアージ社会」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「トリアージ社会」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「トリアージ社会」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「トリアージ社会」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「トリアージ社会」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「トリアージ社会」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「トリアージ社会」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「トリアージ社会」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「トリアージ社会」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「トリアージ社会」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「トリアージ社会」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「トリアージ社会」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 12 | 第８章　現代という課題 | 日常に潜む問題を見つけ出す  【読むこと】 | 権力とは何か | ３ | ①本文を読んで、権力が持つ二面性を理解し、さまざまな物事について、多面的に分析する方法を身につける。  ②境界線とはどのような存在か、国家によってどのような違いがあるかなど、例を挙げながら考える。  ③自分が「権力」の存在を感じるときはどのような場面か、事例を挙げる。  ④関心のある社会問題を一つ取り上げ、その問題について正の側面と負の側面を書き出す。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「権力とは何か」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「権力とは何か」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「権力とは何か」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「権力とは何か」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「権力とは何か」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「権力とは何か」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「権力とは何か」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「権力とは何か」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「権力とは何か」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「権力とは何か」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「権力とは何か」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「権力とは何か」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「権力とは何か」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「権力とは何か」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 1 | 第９章　〈私〉をひらくために | 視野を広げ、自身の考えを見直す  【読むこと】 | ビッグデータ時代の「生」の技法 | ３ | ①本文を通して、現実に生きる人々の具体的な姿から、あるべき社会を描き出す議論の手法を学ぶ。  ②自分たちの身近な場面で「ビッグデータ」がどのように活用されているか調べ、その内容を発表する。  ③「ビッグデータ」活用にともなうメリットとデメリットについて考え、自分の意見をまとめてみよう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「ビッグデータ時代の「生」の技法」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「ビッグデータ時代の「生」の技法」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「ビッグデータ時代の「生」の技法」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「ビッグデータ時代の「生」の技法」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「ビッグデータ時代の「生」の技法」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「ビッグデータ時代の「生」の技法」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「ビッグデータ時代の「生」の技法」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「ビッグデータ時代の「生」の技法」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「ビッグデータ時代の「生」の技法」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「ビッグデータ時代の「生」の技法」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「ビッグデータ時代の「生」の技法」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  カ）　「ビッグデータ時代の「生」の技法」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 1 | 第９章　〈私〉をひらくために | 視野を広げ、自身の考えを見直す  【読むこと】 | 「である」ことと「する」こと | ４ | ①本文を通して、ことばの意味を吟味し、この社会の原理や原則を形づくることばが、どんな思想や行動に支えられているかという分析を突き詰める文章の手法を学ぶ。  ②自分たちの生活の中にある「である」価値と「する」価値について、具体例を挙げて話し合う。  ③夏目漱石「現代日本の開化」と読み比べ、二人の筆者の主張の共通点をまとめたうえで、それに対する自分の考えを書く。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「「である」ことと「する」こと」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「「である」ことと「する」こと」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「「である」ことと「する」こと」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「「である」ことと「する」こと」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「「である」ことと「する」こと」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「「である」ことと「する」こと」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「「である」ことと「する」こと」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「「である」ことと「する」こと」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「「である」ことと「する」こと」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「「である」ことと「する」こと」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「「である」ことと「する」こと」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  カ）　「「である」ことと「する」こと」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 2 | 第９章　〈私〉をひらくために | 視野を広げ、自身の考えを見直す  【読むこと】 | 実践３　資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう | ３ | ①データについて、調査の対象となった集団にはどのような特性があるかを確かめる。  ②インタビューにおいて、質問者がどのような問いかけをしているかに注意する。  ③同じテーマを扱っている複数の主張を比較する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」という実践を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」という実践を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」という実践を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」という実践を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」という実践を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」という実践を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  ウ）　「資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」という実践を通して、推論の仕方について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」という実践を通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」という実践を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」という実践を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」という実践を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」という実践を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  カ）　「資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」という実践を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」という実践を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物 |
| 第二部 | | | | | | | |
| 4 | 第１章　多様性のほうへ | 多様な主張を論じた文章を吟味し、新たな価値観に出会う  【読むこと】 | ピジンという生き方 | ２ | ①本文を通して、ピジン言語ということばのあり方を学び、「ことば」と「私」を外へと開いていく、筆者独自の視点を理解する。  ②私たちが使っている日本語の中には、どのような他言語が痕跡として残っているか、調べて発表する。  ③「旅」「ことば」「新たな経験の可能性」の三つの語句を用いて、６００字以内で本文の内容をまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「ピジンという生き方」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「ピジンという生き方」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「ピジンという生き方」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「ピジンという生き方」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「ピジンという生き方」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「ピジンという生き方」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「ピジンという生き方」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「ピジンという生き方」の読解を通して、評論文という評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「ピジンという生き方」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「ピジンという生き方」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「ピジンという生き方」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  カ）　「ピジンという生き方」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 4 | 第１章　多様性のほうへ | 多様な主張を論じた文章を吟味し、新たな価値観に出会う  【読むこと】 | 「自然を守る」ということ | ２ | ①本文の議論の展開を追いながら、単純な二項対立構造を越えて、新たな思考の枠組みを導き出す筆者の主張を正確に読み取る。  ②関心のある事例を一つ取り上げ、これからの自然保護のあり方について発表する。  ③自然と人間の関係について自分の考えをまとめ、発表する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「「自然を守る」ということ」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「「自然を守る」ということ」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「「自然を守る」ということ」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「「自然を守る」ということ」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「「自然を守る」ということ」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「「自然を守る」ということ」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「「自然を守る」ということ」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「「自然を守る」ということ」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「「自然を守る」ということ」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「「自然を守る」ということ」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「「自然を守る」ということ」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  カ）　「「自然を守る」ということ」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 4 | 第１章　多様性のほうへ | 多様な主張を論じた文章を吟味し、新たな価値観に出会う  【読むこと】】 | 虚ろなまなざし | ３ | ①本文の「主体化」ということばに注意しながら筆者の論旨を把握するとともに、「行動する主体」としての自分自身のふるまいについて、考える。  ②本文の要旨を２００字以内でまとめる。  ③「この地球社会に山積した問題」に向き合おうとするとき、どのようなことが必要か、本文の主旨を踏まえて話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「虚ろなまなざし」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「虚ろなまなざし」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「虚ろなまなざし」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「虚ろなまなざし」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「虚ろなまなざし」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「虚ろなまなざし」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「虚ろなまなざし」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「虚ろなまなざし」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「虚ろなまなざし」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「虚ろなまなざし」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「虚ろなまなざし」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  カ）　「虚ろなまなざし」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　抽象から具体へ | 抽象的な対象についての思考を具体的にまとめる力をつける  【書くこと】 | 物語と歴史のあいだ | ２ | ①本文を通して「物語」と「歴史」の共通点を理解し、「歴史」を書くことを通して、それがいかに「物語」とつながっているのか、確認する。  ②「物語」と「歴史」が表裏一体のものであるという筆者のしゅちょうについて自分の意見をまとめ、互いに話し合う。  ③自分自身のことや家族のこと、地域、学校など、関心のある対象を選んで、書き方に注意しながらその「歴史」を書き、「物語」と「歴史」がどのように重なるかを確かめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「物語と歴史のあいだ」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「物語と歴史のあいだ」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「物語と歴史のあいだ」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「物語と歴史のあいだ」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「物語と歴史のあいだ」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「物語と歴史のあいだ」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「物語と歴史のあいだ」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ　【Ａ 書くこと】  ア）「物語と歴史のあいだ」を参考にレポートや小論文を書き、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができている。  イ）　「物語と歴史のあいだ」を参考にレポートや小論文を書き、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができている。  ウ）　「物語と歴史のあいだ」を参考にレポートや小論文を書き、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。  エ）　「物語と歴史のあいだ」を参考にレポートや小論文を書き、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができている。  オ）　「物語と歴史のあいだ」を参考にレポートや小論文を書き、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができている。  カ）　「物語と歴史のあいだ」を参考にレポートや小論文を書き、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物・定期考査 |
| 5 | 第２章　抽象から具体へ | 抽象的な対象についての思考を具体的にまとめる力をつける  【書くこと】 | 貨幣共同体 | ３ | ①本文通して、「貨幣共同体」の成り立ちについて学び、その不思議な性質についてどのような表現を用いて説明しているかを読み取る。  ②筆者の論旨を参考にしながら、グローバル化した現代の世界経済における通貨の「危機」について、具体的な例を挙げて話し合う。  ③さまざまな説話や文学作品に描かれた、貨幣や財の交換にまつわるふしぎな正確について、その内容をレポートにまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「貨幣共同体」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「貨幣共同体」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「貨幣共同体」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「貨幣共同体」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「貨幣共同体」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「貨幣共同体」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「貨幣共同体」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ　【Ａ 書くこと】  ア）「貨幣共同体」を参考にレポートや小論文を書き、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができている。  イ）　「貨幣共同体」を参考にレポートや小論文を書き、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができている。  ウ）　「貨幣共同体」を参考にレポートや小論文を書き、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。  エ）　「貨幣共同体」を参考にレポートや小論文を書き、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができている。  オ）　「貨幣共同体」を参考にレポートや小論文を書き、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができている。  カ）　「貨幣共同体」を参考にレポートや小論文を書き、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物・定期考査 |
| 5 | 第２章　抽象から具体へ | 抽象的な対象についての思考を具体的にまとめる力をつける  【書くこと】 | ぼくらの民主主義なんだぜ | ２ | ①本文を通して、タイトル、具体例や引用の使い方などの表現技法を意識し、効果的な主張の仕方について考える。  ②クラスで意見を集め、何かを決めていくときに、どのような手順で話し合いを進めているか、手順を図にする。  ③②でまとめた図を元に、話し合いや議論をよりよいものにするにはどうすべきか、話し合う。  ④個人が社会に対して自分の意見を訴える際にはどのようなことに気をつけなければならないか、自分の考えをまとめ、４００字以内で書く。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「ぼくらの民主主義なんだぜ」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「ぼくらの民主主義なんだぜ」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「ぼくらの民主主義なんだぜ」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「ぼくらの民主主義なんだぜ」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「ぼくらの民主主義なんだぜ」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「ぼくらの民主主義なんだぜ」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「ぼくらの民主主義なんだぜ」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ　【Ａ 書くこと】  ア）「ぼくらの民主主義なんだぜ」を参考にレポートや小論文を書き、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができている。  イ）　「ぼくらの民主主義なんだぜ」を参考にレポートや小論文を書き、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができている。  ウ）　「ぼくらの民主主義なんだぜ」を参考にレポートや小論文を書き、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。  エ）　「ぼくらの民主主義なんだぜ」を参考にレポートや小論文を書き、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができている。  オ）　「ぼくらの民主主義なんだぜ」を参考にレポートや小論文を書き、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができている。  カ）　「ぼくらの民主主義なんだぜ」を参考にレポートや小論文を書き、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物・定期考査 |
| ５ | 第２章　抽象から具体へ | 抽象的な対象についての思考を具体的にまとめる力をつける  【書くこと】 | 実践４　自分の経験や考えを効果的に書いてみよう | １ | ①自己ＰＲが求められるシチュエーションを設定し、場面にあった文章を書く。  ②相手が求める人物像と、自己ＰＲで主張したい方向と一致しているか、じっくり検討する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「自分の経験や考えを効果的に書いてみよう」という実践を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「自分の経験や考えを効果的に書いてみよう」という実践を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「自分の経験や考えを効果的に書いてみよう」という実践を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「自分の経験や考えを効果的に書いてみよう」という実践を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「自分の経験や考えを効果的に書いてみよう」という実践を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「自分の経験や考えを効果的に書いてみよう」という実践を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「自分の経験や考えを効果的に書いてみよう」という実践を通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ　【Ａ 書くこと】  ア）「自分の経験や考えを効果的に書いてみよう」という実践を参考にレポートや小論文を書き、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができている。  イ）　「自分の経験や考えを効果的に書いてみよう」という実践を参考にレポートや小論文を書き、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができている。  ウ）　「自分の経験や考えを効果的に書いてみよう」という実践を参考にレポートや小論文を書き、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。  エ）　「自分の経験や考えを効果的に書いてみよう」という実践を参考にレポートや小論文を書き、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができている。  オ）　「自分の経験や考えを効果的に書いてみよう」という実践を参考にレポートや小論文を書き、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができている。  カ）　「自分の経験や考えを効果的に書いてみよう」という実践を参考にレポートや小論文を書き、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物 |
| ６ | 第３章　可視化する力 | 社会の変化をつかみ取る  【読むこと】 | つながりと秩序 | ３ | ①本文を通して、社会学の観点から社会の変容をたどる考察の展開をつかむ。  ②「ケータイ」の普及による「『見られているかもしれない』不安」と「『見られていないかもしれない』という接続不安」はどのような場面に発生するのか。自分の体験を元に具体的にまとめる。  ③携帯端末の普及による功罪を、筆者の論旨に従ってまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「つながりと秩序」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「つながりと秩序」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「つながりと秩序」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「つながりと秩序」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「つながりと秩序」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「つながりと秩序」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「つながりと秩序」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「つながりと秩序」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「つながりと秩序」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「つながりと秩序」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「つながりと秩序」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  カ）　「つながりと秩序」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ６ | 第３章　可視化する力 | 社会の変化をつかみ取る  【読むこと】 | 真実の百面相 | ３ | ①哲学者である筆者の主張を手がかりに「真実」ということについて考え、重厚な論理を味わう。  ②「『誤り』」と「虚妄」はどう違うのか。筆者の論旨に従ってまとめる。  ③「コップの中に水が入っている様子」を「コップ」と「水」ということばを使わずに書き表す。そして書いた内容を互いに見せ合い、感じたことを２００字程度でまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「真実の百面相」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「真実の百面相」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「真実の百面相」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「真実の百面相」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「真実の百面相」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「真実の百面相」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「真実の百面相」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「真実の百面相」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「真実の百面相」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「真実の百面相」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「真実の百面相」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  カ）　「真実の百面相」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ６ | 第３章　可視化する力 | 社会の変化をつかみ取る  【読むこと】 | 死の恐怖について | ３ | ①本文を通して、具体的な出来事を抽象的な思考へと昇華させたときに見えてくる本質を読み取る。  ②本文を読んだ上で「人間性」とはどのようなものかを考えながら、自分の答えをまとめる。  ③人はどのような形で死をむかえるのがよいと考えられるか、本文を参考にしながらまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「死の恐怖について」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「死の恐怖について」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「死の恐怖について」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「死の恐怖について」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「死の恐怖について」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「死の恐怖について」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「死の恐怖について」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「死の恐怖について」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「死の恐怖について」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「死の恐怖について」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「死の恐怖について」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  カ）　「死の恐怖について」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ７ | 第４章　語りと世界 | ことばによって語るという行為の意味を捉える  【読むこと】 | ことばへの問い | ２ | ①本文を踏まえ、人間の心とことばの機能について読み解き、考える。  ②好きな詩や小説の一節、歌詞を挙げて、それぞれどのように思いを言語化しているか、互いに発表する。  ③本文と長田弘「アイオワの玉葱」や若林幹生「地図の想像力」とを読み比べて、言語と現実に対する考え方について共通する部分をまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「ことばへの問い」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「ことばへの問い」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「ことばへの問い」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「ことばへの問い」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「ことばへの問い」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「ことばへの問い」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「ことばへの問い」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「ことばへの問い」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「ことばへの問い」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「ことばへの問い」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「ことばへの問い」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「ことばへの問い」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「ことばへの問い」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「ことばへの問い」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ７ | 第４章　語りと世界 | ことばによって語るという行為の意味を捉える  【読むこと】 | 物語としての自己 | ３ | ①本文を読み解き、本文で論じられた物語の作用について理解し、自分がどのような物語を語っているか、考える。  ②野家啓一「物語と歴史のあいだ」と本文の主張とを読み比べ、人が歴史や自分のアイデンティティを形成する時に「物語」がどのような役割を果たすか、４００字以内でまとめる。  ③明治時代の若者の葛藤を描いた作品として知られる「舞姫」（森鷗外）を読み、その登場人物たちが作品の中でどのような「物語」を生きているか、本文の論旨を踏まえて感想をまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「物語としての自己」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「物語としての自己」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「物語としての自己」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「物語としての自己」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「物語としての自己」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「物語としての自己」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「物語としての自己」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「物語としての自己」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「物語としての自己」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「物語としての自己」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「物語としての自己」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「物語としての自己」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「物語としての自己」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「物語としての自己」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ７ | 第４章　語りと世界 | ことばによって語るという行為の意味を捉える  【読むこと】 | ポピュリズムとは何か | ２ | ①本文を通して、「ポピュリズム」の特徴や構造を読み取り、その構造の中でことばの力がどのように働いているか、捉える。  ②賛成か反対かに大きく分かれて社会的議論が起こった「政治的アジェンダ」にはどのようなものがあるか、図書館の本や新聞、インターネット上のニュースなど、多様なメディアを用いて調べる。  ③②でしらべたアジェンダについて、賛成・反対それぞれの立場からどのような主張がされていたかをレポートにまとめ、互いに発表する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「ポピュリズムとは何か」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「ポピュリズムとは何か」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「ポピュリズムとは何か」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「ポピュリズムとは何か」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「ポピュリズムとは何か」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「ポピュリズムとは何か」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「ポピュリズムとは何か」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「ポピュリズムとは何か」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「ポピュリズムとは何か」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「ポピュリズムとは何か」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「ポピュリズムとは何か」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「ポピュリズムとは何か」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「ポピュリズムとは何か」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「ポピュリズムとは何か」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| ９ | 第５章　「当たり前」を疑う | 既成概念を覆す創造的な思考を身につける  【書くこと】 | 思考の誕生 | ３ | ①本文を通して、抽象的なことばや、当然のことのように語られる意見に流されない議論の態度を学ぶとともに、「他人」の捉え方に関する問題点の指摘に注目する。  ②「思考」とはどのようなものなのか、筆者の考えを踏まえた上で自分の意見を文章にまとめ、発表する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「思考の誕生」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「思考の誕生」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「思考の誕生」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「思考の誕生」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「思考の誕生」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「思考の誕生」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「思考の誕生」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ　【Ａ 書くこと】  ア）「思考の誕生」を参考にレポートや小論文を書き、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができている。  イ）　「思考の誕生」を参考にレポートや小論文を書き、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができている。  ウ）　「思考の誕生」を参考にレポートや小論文を書き、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。  エ）　「思考の誕生」を参考にレポートや小論文を書き、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができている。  オ）　「思考の誕生」を参考にレポートや小論文を書き、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができている。  カ）　「思考の誕生」を参考にレポートや小論文を書き、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物・定期考査 |
| ９ | 第５章　「当たり前」を疑う | 既成概念を覆す創造的な思考を身につける  【書くこと】 | 絵画の二十世紀 | ３ | ①本文が取り上げた「写真」の誕生が私たちに与えた歴史的な変化とはどのようなものか読み取り、それが自分自身の世界の見方にどのようにかかわっているか、理解する。  ②本文の要旨を２００字以内でまとめる。  ③「写真」と「絵画」という二つの表現方法について、自分の関心のある方を選び、具体的な作品を取り上げながら、その表現技法の長所と短所をレポートにまとめる。そして自分とは異なる表現方法についてレポートした人と、互いに説明し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「絵画の二十世紀」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「絵画の二十世紀」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「絵画の二十世紀」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「絵画の二十世紀」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「絵画の二十世紀」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「絵画の二十世紀」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「絵画の二十世紀」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ　【Ａ 書くこと】  ア）「絵画の二十世紀」を参考にレポートや小論文を書き、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができている。  イ）　「絵画の二十世紀」を参考にレポートや小論文を書き、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができている。  ウ）　「絵画の二十世紀」を参考にレポートや小論文を書き、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。  エ）　「絵画の二十世紀」を参考にレポートや小論文を書き、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができている。  オ）　「絵画の二十世紀」を参考にレポートや小論文を書き、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができている。  カ）　「絵画の二十世紀」を参考にレポートや小論文を書き、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物・定期考査 |
| ９ | 第５章　「当たり前」を疑う | 既成概念を覆す創造的な思考を身につける  【書くこと】 | 日本文化私観 | ３ | ①本文を通して、筆者の主張する独自の見解を読み取るとともに、時代は意見と重ね合わせた上で理解する力を高める。  ②筆者の「美」に対する考えを踏まえた上で、それに対する賛否の立場を明確にしながら自身の「美」に対する考えを４００字以内で書く。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「日本文化私観」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「日本文化私観」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「日本文化私観」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「日本文化私観」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「日本文化私観」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「日本文化私観」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「日本文化私観」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ　【Ａ 書くこと】  ア）「日本文化私観」を参考にレポートや小論文を書き、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができている。  イ）　「日本文化私観」を参考にレポートや小論文を書き、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができている。  ウ）　「日本文化私観」を参考にレポートや小論文を書き、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができている。  エ）　「日本文化私観」を参考にレポートや小論文を書き、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができている。  オ）　「日本文化私観」を参考にレポートや小論文を書き、個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができている。  カ）　「日本文化私観」を参考にレポートや小論文を書き、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第６章　「近代」を再読する | 異なる時代の先見的文章から現代を考える  【読むこと】 | 主義は広大なるべき事 | ２ | ①本文を通して、漢文訓読体の格調高い文章に親しむと共に、なにが筆者の主張の「わかりやすさ」を支えているのか、文章の構成の工夫に注目する。  ②本文に使われていることばや表現でなじみのないものについて、意味や使い方を調べる。  ③本文が書かれた時代や、本文が掲載された新聞『時事新報』を筆者が創刊したいきさつについて調べる。  ④論旨を読者にわかりやすくするために筆者はどのような工夫を行っているか、具体例とともに挙げる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「主義は広大なるべき事」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「主義は広大なるべき事」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「主義は広大なるべき事」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「主義は広大なるべき事」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「主義は広大なるべき事」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「主義は広大なるべき事」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「主義は広大なるべき事」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「主義は広大なるべき事」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「主義は広大なるべき事」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「主義は広大なるべき事」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「主義は広大なるべき事」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「主義は広大なるべき事」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「主義は広大なるべき事」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「主義は広大なるべき事」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第６章　「近代」を再読する | 異なる時代の先見的文章から現代を考える  【読むこと】 | 自由の説 | ２ | ①本文に使われていることばや表現でなじみのないものについて、意味や使い方を調べる。  ②本文を読んで、筆者中江兆民が「自由」をどのように説明しているか、読み解く。  ③現代の自分たちと、中江兆民の考える「自由」とで、何を共有していて、どのような点が異なるか。文章の内容を整理しつつ考える。  ④現代においては、「自由」をめぐってどのようなことが問題となり、どのような議論がなされているか、調べる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「自由の説」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「自由の説」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「自由の説」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「自由の説」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「自由の説」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「自由の説」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「自由の説」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「自由の説」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「自由の説」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「自由の説」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「自由の説」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「自由の説」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「自由の説」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「自由の説」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第６章　「近代」を再読する | 異なる時代の先見的文章から現代を考える  【読むこと】 | 何のための「自由」か | ３ | ①本文を通して、現代における「自由」の問題について読み解き、これからの私たちが望む「自由」「幸福」とはどのようなものかについて考える。  ②私たちはさまざまな場面で選択をしているが、それは私たちの「自由意志」によるものか、話し合う。  ③「幸福」と「自由」の関係について、自分の考えを４００字程度でまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「何のための「自由」か」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「何のための「自由」か」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「何のための「自由」か」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「何のための「自由」か」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「何のための「自由」か」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「何のための「自由」か」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「何のための「自由」か」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「何のための「自由」か」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「何のための「自由」か」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「何のための「自由」か」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「何のための「自由」か」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「何のための「自由」か」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「何のための「自由」か」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「何のための「自由」か」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第６章　「近代」を再読する | 異なる時代の先見的文章から現代を考える  【読むこと】 | 実践５　複数の主張を比較してみようー多角的読書のすすめ | １ | ①読み比べるテーマを設定する。  ②設定したテーマに関する記事・論文・書籍を複数探して読み、気になる内容・主旨などを書き出す。  ③複数の文章を読むことで得られた知見を総合し、自分の意見・感想を文章にまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「複数の主張を比較してみよう」という実践を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「複数の主張を比較してみよう」という実践を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「複数の主張を比較してみよう」という実践を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「複数の主張を比較してみよう」という実践を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「複数の主張を比較してみよう」という実践を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「複数の主張を比較してみよう」という実践を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）「複数の主張を比較してみよう」という実践を通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「複数の主張を比較してみよう」という実践を通して、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「複数の主張を比較してみよう」という実践を通して、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「複数の主張を比較してみよう」という実践を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「複数の主張を比較してみよう」という実践を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「複数の主張を比較してみよう」という実践を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「複数の主張を比較してみよう」という実践を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「複数の主張を比較してみよう」という実践を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11 | 第７章　記号がつくる世界 | 抽象性の高い文章を整理し、理解する力を深める  【読むこと】 | ものとこと | ３ | ①本文の読解を通して、認識をめぐることばや記号の高度な働きについて理解を深める。  ②本文の主張を支えている根拠となる事例や考え方についてまとめる。  ③好きな俳句や詩を選んで、本文を踏まえてそこにどのような「もの」や「こと」の「共生関係」があるか、考える。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「ものとこと」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「ものとこと」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「ものとこと」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「ものとこと」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「ものとこと」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「ものとこと」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「ものとこと」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「ものとこと」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「ものとこと」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「ものとこと」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「ものとこと」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「ものとこと」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「ものとこと」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「ものとこと」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11 | 第７章　記号がつくる世界 | 抽象性の高い文章を整理し、理解する力を深める  【読むこと】 | 「病気」の向こう側 | ３ | ①本文を例に、どのような発見が、どのような概念を生み、どのような「認識」を形成していったのか、読み取る。  ②さまざまな分野の歴史を調べて、発見や発明などによって物の見方が変わった事例を探す。  ③本文を参考に「学問」や「知識」について意見をまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「「病気」の向こう側」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「「病気」の向こう側」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「「病気」の向こう側」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「「病気」の向こう側」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「「病気」の向こう側」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「「病気」の向こう側」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「「病気」の向こう側」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「「病気」の向こう側」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「「病気」の向こう側」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「「病気」の向こう側」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「「病気」の向こう側」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「「病気」の向こう側」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「「病気」の向こう側」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「「病気」の向こう側」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11 | 第７章　記号がつくる世界 | 抽象性の高い文章を整理し、理解する力を深める  【読むこと】 | 過剰性と稀少性 | ３ | ①本部の読解を通して、高度に抽象的な文章を理解する読解力を磨く。  ②現代社会における「相互模範的な欲望」にはどのようなものがあるか、具体例を挙げながら話し合う。  ③資本主義についての書籍を一冊読んで、その内容をレポートにまとめて発表する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「過剰性と稀少性」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「過剰性と稀少性」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「過剰性と稀少性」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「過剰性と稀少性」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「過剰性と稀少性」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「過剰性と稀少性」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「過剰性と稀少性」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「過剰性と稀少性」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「過剰性と稀少性」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「過剰性と稀少性」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「過剰性と稀少性」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「過剰性と稀少性」の読解を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができている。  カ）　「過剰性と稀少性」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「過剰性と稀少性」の読解を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 12 | 第８章　よみがえる問い | 論理的な構成の重要性を再確認する  【読むこと】 | 記憶の満天 | ３ | ①本文を通して、比喩やイメージを用いて語る力を理解し、論理とレトリックの関係を考える。  ②「〈時間〉の生み」という比喩が持つ効果についてまとめる。  ③「ハッブル宇宙望遠鏡」によって撮影された写真を集め、どれがどのように見えるか、そこから何を感じたかを話し合う。  ③「見えるもの」と「見えないもの」をテーマに自分の考えをまとめ、４００字以内で書いてみよう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「記憶の満天」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「記憶の満天」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「記憶の満天」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「記憶の満天」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「記憶の満天」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「記憶の満天」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「記憶の満天」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「記憶の満天」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「記憶の満天」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「記憶の満天」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「記憶の満天」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  カ）　「記憶の満天」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 12 | 第８章　よみがえる問い | 論理的な構成の重要性を再確認する  【読むこと】 | 戦争と平和についての観察 | ３ | ①筆者のことばをてがかりに「戦争」についてかんがえ、どのようなものが人の目をくらませるのか、調べながら読む。  ②本文の要旨を２００字以内でまとめる。  ③「そして、ある日、人は戦争に直面する。」に込められた筆者の思いを考え、２００字以内でまとめる。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「戦争と平和についての観察」の読解を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「戦争と平和についての観察」の文中に含まれた語句を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「戦争と平和についての観察」の読解を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「戦争と平和についての観察」の読解を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「戦争と平和についての観察」の読解を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「戦争と平和についての観察」の読解を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）　「戦争と平和についての観察」を読むことを通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「戦争と平和についての観察」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「戦争と平和についての観察」の読解を通して、評論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「戦争と平和についての観察」の読解を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「戦争と平和についての観察」の読解を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  カ）　「戦争と平和についての観察」の読解を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 1 | 第８章　よみがえる問い | 論理的な構成の重要性を再確認する  【読むこと】 | 実践６　論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう | １ | ①先行研究の論文を読んで自分の考えをまとめるために、テーマを決める。  ②文献を確認する。  ③文献をまとめ、レポートにする。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア）「論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう」という実践を通して、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。  イ）「論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう」という実践を通して、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ）「論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう」という実践を通して、文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている  エ）「論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう」という実践を通して、文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 情報の扱い方に関する事項  ア）　「論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう」という実践を通して、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている。  イ）　「論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう」という実践を通して、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  ウ）　「論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう」という実践を通して、推論の仕方について理解を深め、自ら発表やレポートを作成する際に使うことができている。  (3) 我が国の言語文化に関する事項  ア）「論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう」という実践を通して、新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができている。  ｂ【Ｂ 読むこと】  ア）　「論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう」という実践を通して、論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができている。  イ）　「論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう」という実践を通して、論文という文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができている。  ウ）　「論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう」という実践を通して、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている。  エ）　「論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう」という実践を通して、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができている。  オ）　「論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう」という実践を通して、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら内容の解釈を深めることができている。  カ）　「論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう」という実践を通して、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができている。  キ）　「論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう」という実践を通して、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈読書への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・提出物 |